

# 経済・金融 フラッシュ

## 5月 BOE 金融政策委員会:政策金利は据え置き、量的緩和の規模は拡大

経済調査部門 主任研究員 伊藤 さゆり

TEL:03-3512-1832 E-mail: ito@nli-research.co.jp

イングランド銀行は6～7日に金融政策委員会(MPC)を開催、政策金利の0.5%での据え置きと3月に開始したBOEの資金による中長期国債等の資産買い取り(量的緩和)の規模を500億ポンド増額し、合計1250億ポンドとすることを決めた。

今回の決定の背景には、景気の現状が厳しく、先行きの不確実性がなお高いことがある。

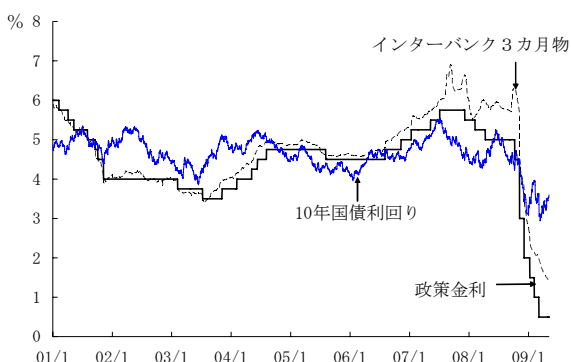
### ( 政策金利は0.5%で据え置き、量的緩和は750億ポンドから1250億ポンドに拡大 )

イングランド銀行(BOE)は、3月に政策金利を0.5%に引き下げるとともに、BOEの資金で中長期国債等を中心とする資産買い取りを行なう量的緩和に踏み切った。このため、4月以降の金融政策委員会(MPC)では、政策金利の水準とともに資産買い取りプログラムについて協議・決定するようになってきている。

6日～7日に開催された5月のMPCでは、政策金利の0.5%での据え置き(図表1)と、3月に開始した資産買い取り枠を500億ポンド増額し、総額1250億ポンドとすることを発表した。

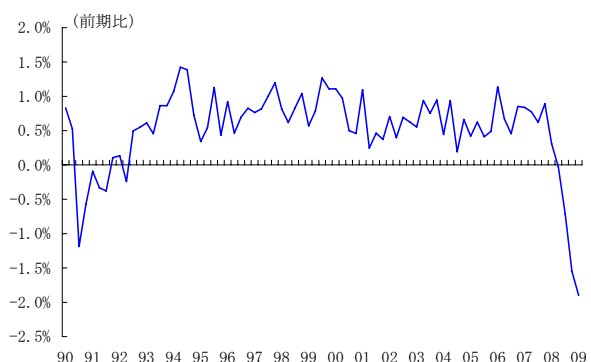
声明文によれば、「資産買い取り開始以来、これまでに520億ポンド強の買い取りを行っており、残りの枠の消化には、さらに3カ月かかる」、「プログラムの規模は引き続き検討する」とされた。

図表1 BOEの政策金利と長短金利



(資料) Datastream

図表2 イギリスの実質GDP成長率



(資料) ONS

### ( 厳しい景気認識が背景 )

先月24日に公表された1～3月期のGDP成長率(暫定値)は前期比マイナス1.9%と10～12

月期の同マイナス 1.6%を上回る落ち込みとなった（図表 2）。MPC が、今回、量的緩和の規模拡大を決めた背景には、景気の現状が厳しく、先行きの不確実性がなお高いことがある。

声明文によれば、景気の現状は、「内外のサーベイ調査は落ち込みのペースが穏やかになりつつある兆しを示すようになった」ものの、「世界経済は深刻な後退局面」にあり、「世界の金融システムは一段の政策強化にも関わらずなお不安定」とされた。

また経済の先行きについて、「貯蓄率の上昇や銀行のリストラ、世界需要の低迷などが経済活動の重しとなる」一方、「内外における財政・金融政策対応、ポンド安、国際商品価格の下落、信用のアベイラビリティ改善のための国際的対応」が「経済の回復を促し、インフレ率の 2%への回帰をもたらす」と期待されるが、「回復のタイミングと強さは極めて不確実」との見方が示された。

### （ 5月のインフレ報告は 13 日、議事録は 22 日に公開 ）

4月MPCの議事録によれば、今回決定された資産買い取り（量的緩和）の規模の拡大は、4月の時点では材料不足を理由に見送られていたことがわかる。今回のMPCの議論は、BOEが四半期に1度まとめる「インフレ報告」の5月号が叩き台となっており、前回2月以降の追加利下げと3月からの量的緩和の効果を踏まえた見通しの修正を受けて、今回の決定に至ったものと思われる。

「インフレ報告」5月号は今月13日に公表予定である。20日公開のMPCの議事録とともに注目したい。

---

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。